

## 基本理念

### 目的（存在理由）

#### 社会への貢献

わたしたちは  
社会に役立ち、人々の心や暮らしを豊かにし、  
よって社会に貢献することを目的とします。

### 基本的価値観（不変の主義）

#### 1 開拓の精神

わたしたちは、失敗を恐れず、情熱を持って、  
未開の地（新しい分野）に挑戦することを誇りとします。

#### 2 不断の努力

わたしたちは、弛みない努力によって、  
困難に打ち勝ち、目的の実現に至ることを喜びとします。

#### 3 誠実な意志

わたしたちは、わたしたちを支える人々\*に対し、  
揺らぐことのない誠実な意志によって行動します。

\*「わたしたちを支える人々」とはステークホルダー  
（お客様、サプライヤー、株主・投資家、従業員とその家族など）を指します。

## 株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
ここに第46期中間（平成26年4月1日～平成26年9月  
30日）報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当第2四半期連結累計期間（当上期）における日本経済は、企業収益の回復を受け、株式市場が好調に推移し、設備投資も増加するなど、緩やかな回復基調が見られました。その一方で、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動によって個人消費が落ち込み、景況感は足踏み状態となっています。

ユニットハウス業界は、公共投資の堅調な推移や建設工事の増加などにより、需要の拡大傾向が続いています。しかし一方で、建設現場の労働者不足が顕在化して社会

問題となっており、先行きは楽観視できない状況です。その労働者不足の問題を解消していく上で、工場内で製品の大部分を製造するユニット工法が貢献できると考えています。

このような事業環境のもと、当社グループは生産および物流拠点の設備拡充を進めることで、需要増加に対応できる体制を整えてきました。また、展示販売場やトランクルーム等の店舗ネットワーク拡充についても、計画通り取り組みを続けています。

当社のポリシーである「必要な時に必要な空間を必要な設備とともに提供する」を実践することで、当社のユニットハウスは、従来の仮設建設市場のみならず、ここ数年来開拓を続けてきた本建築市場、不動産市場においてもその優位性を十分発揮できるものと確信しています。“建築の完全なる工業化”という当社のコア技術をさらに高めていくことにより、新たな市場の開拓を図っていく所存です。

今後とも創業当時から受け継がれてきたフロンティアスピリッツ（開拓の精神）を原点に、社会に貢献する会社を目指し、失敗を恐れず情熱をもって活動していきます。

### 当上期の業績について

ユニットハウスのレンタルは、前期に引き続き、公共投資予算の増加に加え、民間の設備投資の増加により、全国的に出荷が好調に推移しました。また、エアコンシステムや電気設備・配線をユニットハウスと一体化した配電システムによって、ユニットハウスの付加価値を高め、引き続き受注拡大に努めました。トランクルームは、新たに23店舗出店するなど売上拡大を図りました。

ユニットハウスの販売においては、新規展示場の出店による拡販を図るとともに、既存店舗のリニューアルを積極的に行うことで販売チャネルの拡充に努めました。

上記の結果、当上期の連結売上高は14,286百万円（前年同期比14.6%増）となりました。

利益面においては、営業利益1,976百万円（前年同期比33.9%増）、経常利益1,942百万円（前年同期比35.3%増）、四半期純利益1,075百万円（前年同期比43.4%増）になりました。

なお、レンタル資産の増強を行った結果、当上期における総資産は、前期末に対し2,483百万円増加し50,227百万円となりました。また純資産の合計額は、前期末に対し732百万円増加し22,152百万円となりました。

当社は、今後ともリユース可能なユニットハウスの特長を活かし、期間限定で空間を必要とするニーズを開拓し、業績の拡大に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導・鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成26年12月

代表取締役社長 長妻貴嗣